



入

書
卷
之
初
冊

1953
5



1953
5

當世所伽曾我

五之卷目錄

第一 指ゆび髪かみ起こ結むすち女に郎らう乃の仮かり粧づけ田でん

但馬
住すま屋や老らう翁う
湯ゆ嶋じま

付つ、湯嶋の風流が大層。屋敷付、角はれ、丸巾、引くあけ、女房、れづ、さ、ま。
男おとこををぬぬ床とこりり乃の回まわささ付つ

第二 傾かたむ城しろよよふふれれてて至ひ湯ゆ法ほう家か容よう乳にゅう

付つ、大層の至真のむて、さ、乃、む、ま、あ、こ、た、ま、け、の、名、何、わ、げ、や、て、の、り、さ、ま、の、至、念、な、が、く、金、よ、い、く、ま、ぬ、賞、よ、

上ノ巻目録

二

第三 大盃呑込ふら老人の文相い

廊の志づれづのとおきく南庭の
 付、たふやれ。流やど、堅いあやしが、実より
 ころのほくは、飯茶

第四 嫁入盛の娘れ下紐とけぬ心

一石の隙子紙、くらののはよい。女
 付、同志のかくく、采よけて、くる下ふ
 といやぐ、孝けと、無縁のじと、あま

第一

物髪記 清の女房れ飯糰田

付タリ 産後付の角のれ、丸た巾

浅く、のろの相いと、相合句、此宗世が、あつらぬもの、あつて
 と、着て、と、思、二重の赤く、あつて、あり、は、本、れ、紋、あ、と、い、び、本
 綿、足、袋、え、く、つ、な、で、と、襦、の、や、ま、ま、あ、つ、と、汁、ま、れ、い、ま、の、さ、る、物
 足、り、や、う、に、三、指、よ、月、指、し、て、未、社、も、ま、れ、ん、と、つ、ま、ず、幾、度、う
 月、よ、た、ら、一、ま、た、く、の、編、笠、ま、て、毎、日、常、通、い、わ、い、わ、ら、女、房、も
 肩、ぐ、と、が、り、ま、の、ご、く、あ、る、事、れ、も、祓、ご、う、ま、ま、あ、る、身、で、い、ま、い、せ、い、ふ
 ら、げ、あ、り、下、着、れ、た、ら、あ、と、を、通、さ、く、雨、れ、女、房、で、坊、の、ほ、く、事
 ぞ、う、あ、つ、と、相、い、し、つ、つ、男、と、衣、裳、あ、り、し、て、若、歌、の、未、社、と、な、た、ま
 つ、ま、髪、切、ち、つ、ら、奴、茶、飯、れ、ま、流、う、あ、せ、お、ん、つ、ま、氣、を、入、と、大
 幅、よ、出、て、こ、も、の、厨、か、り、月、よ、ひ、つ、つ、あ、つ、て、ま、る、は、格、子、ま、け



どのやうなやそ事りとも。虎なるうづりもとちかひらうのうがね
 と。よの知らうしーくにちがうなれ。今うをきよふかひんは
 んとをます。橋のあつた名あよる。自由のあつたねあまなり
 おまの侍もいざいで。かきとてまうーたね。あまうけ橋および
 中とちがかり切て。あづくは甲がよしね。あつたあまうー
 ざらせよ。あつたあまうーたね。あつたあまうーたね。あつたあまうー
 中がめんどううとね。いかにして。お事の入命なれ。これよりまねね
 よよして。あつたあまうーたね。あつたあまうーたね。あつたあまうー
 虎がら。あつたあまうーたね。あつたあまうーたね。あつたあまうー
 ていかに。月夜のあつたあまうーたね。あつたあまうーたね。あつたあまうー
 あよりうすい。あつたあまうーたね。あつたあまうーたね。あつたあまうー
 とおれが中へ。あつたあまうーたね。あつたあまうーたね。あつたあまうー

色あつたあまうーたね。あつたあまうーたね。あつたあまうーたね。あつたあまうー
 仕舞あつたあまうーたね。あつたあまうーたね。あつたあまうーたね。あつたあまうー
 よせて。あつたあまうーたね。あつたあまうーたね。あつたあまうーたね。あつたあまうー
 ち屋あつたあまうーたね。あつたあまうーたね。あつたあまうーたね。あつたあまうー
 ぶい。あつたあまうーたね。あつたあまうーたね。あつたあまうーたね。あつたあまうー
 やつたあまうーたね。あつたあまうーたね。あつたあまうーたね。あつたあまうー
 おあつたあまうーたね。あつたあまうーたね。あつたあまうーたね。あつたあまうー
 まづあつたあまうーたね。あつたあまうーたね。あつたあまうーたね。あつたあまうー
 小座あつたあまうーたね。あつたあまうーたね。あつたあまうーたね。あつたあまうー
 らあつたあまうーたね。あつたあまうーたね。あつたあまうーたね。あつたあまうー
 人のあつたあまうーたね。あつたあまうーたね。あつたあまうーたね。あつたあまうー

とていせいでいあはしませぬやどいあがりや切下を
は縁に才よ未だでいあはしませぬやどいあがりや切下を
いと切下をいあはしませぬやどいあがりや切下を
はくやふうやどいあはしませぬやどいあがりや切下を
まぬけとあはしませぬやどいあがりや切下を
そふとけとあはしませぬやどいあがりや切下を
あつとあはしませぬやどいあがりや切下を
作らうぞ。いせいのやどいあがりや切下を
とつてあはしませぬやどいあがりや切下を
こゝやいせいのやどいあがりや切下を

才二

傾城よりしてを縁法家各乳

付タリ 大はのふまのちてこれ娘は

醉素人よりござらぬ。おてあはれり男よあはしませぬや
し。まぬけの母味とあはしませぬや。まぬけの男よあはしませぬや
この男よあはしませぬや。あはしませぬや。あはしませぬや
洞である。腎の勝る湯のやいあがりや切下を
ろくはせざるのらうやどいあがりや切下を
あはしませぬや。あはしませぬや。あはしませぬや
言下よあはしませぬや。あはしませぬや。あはしませぬや
一板とあはしませぬや。あはしませぬや。あはしませぬや
あはしませぬや。あはしませぬや。あはしませぬや
こあはしませぬや。あはしませぬや。あはしませぬや
らあはしませぬや。あはしませぬや。あはしませぬや
小あはしませぬや。あはしませぬや。あはしませぬや

白菊

しつふあそひ先きてなほらんぢが。そわろく帳ふありや
 つまど。敵乃帳うつあひつたど。こまきとあねがどて。何とあ
 りとまあをぞう第しりあをさよ。横ふとさして虎と初て
 ねとつづ。そんかこよ人の始れとあついで。うか書とえりら。
 ち事の男いよりと梅よまふとあました。まのやあでいござら
 まへ。内院へおふがそんづで。あ向のあねがんで。人の娘とど
 う一紙とつけたといひけて。こまあどく下り付よまろ。智恵ら
 どふてくと毛すけよあふ巧ぎとごら。うと女とあつたて。令
 よとくぬ男と。だぶよまろやあかうけとこまふと。あそひあ
 が後がら。あさあの敵ハ祐他。うけ敵ハ白菊どの。今あそ
 ごとらたあつたば。あねまのつねのまのまのあそひあつた
 よらぐよべと。ひりあ男とりて。後とあまひくもあつた



ていひ置へうへは中身へと多うが頬がしけらぬわげも高
貴と今日切しきまきては擲ととのくる。世一者がうらみの
とらやうとていふはうらう。こらよ一つれお察として具今を
急後するをとおがくしくせむ。夫婦の親のきりくけり
後子可。私どもが念の股まつの血免とてむらりにかや
かおらものしくやれお入ゆ。まの今有は擲とよいあが破
滅してます。まの血いひらでこのやゆと多うなれおん
しつあられまよ。おげわつおはねとてきりうして。か
なのかんとおでうして下りませと。虎よとせとよ。は
あやまりであうとらひきて一んぶらうらうよ。まがくわ
酒のお子よあはれお入ゆ。まの血いひらでこのやゆと
ます。まの血いひらでこのやゆと。

あんせいでいとおの。まよのやうで後のから。まよの
夫婦のまよは足とおまらうていひあつて。お氣がのかりうらうと
家内とまらうておて。まの血いひらでこのやゆと。虎
お出かされておとらうて作られて下されまよ。十
て。まの血いひらでこのやゆと。まの血いひらでこのやゆと。
らうかよ。まよの血いひらでこのやゆと。まの血いひらでこのやゆと。
難儀といひ。彼もあつて。まの血いひらでこのやゆと。まの血いひらでこのやゆと。
しきおせ。眼をうらうて。まの血いひらでこのやゆと。まの血いひらでこのやゆと。
まの血いひらでこのやゆと。まの血いひらでこのやゆと。まの血いひらでこのやゆと。
のわらう。まの血いひらでこのやゆと。まの血いひらでこのやゆと。まの血いひらでこのやゆと。
神でいひらでこのやゆと。まの血いひらでこのやゆと。まの血いひらでこのやゆと。
とわらう。まの血いひらでこのやゆと。まの血いひらでこのやゆと。まの血いひらでこのやゆと。

さん。さういふからいふるやうな事をする。たんとさうぞもしく、
 たのりかされざるものもあつて、此の小姓も、十易訪ぬらん
 た。養父が、もへ入つて、湯の川に、いせせ。由時、いせせ
 と。も他、雅也を、いせせ、いせせ、いせせ、いせせ、いせせ、いせせ、
 宗が、おき、十易、の、対面、して、いせせ、いせせ、いせせ、いせせ、
 れば、和田虎が、いせせ、いせせ、いせせ、いせせ、いせせ、いせせ、
 といつた。極、いせせ、いせせ、いせせ、いせせ、いせせ、いせせ、
 の、いせせ、いせせ、いせせ、いせせ、いせせ、いせせ、いせせ、
 坊、いせせ、いせせ、いせせ、いせせ、いせせ、いせせ、いせせ、
 ら、いせせ、いせせ、いせせ、いせせ、いせせ、いせせ、いせせ、
 の、いせせ、いせせ、いせせ、いせせ、いせせ、いせせ、いせせ、
 年、いせせ、いせせ、いせせ、いせせ、いせせ、いせせ、いせせ、



五之巻 下 伽曽我

金をついで虎とていふはして...
かきやうあげつめはあつらひ...
とる新屋つて親くはあつらひ...
いよふ女房でいごうつれ...
虎男とていふはあつらひ...
わびよ今この男とていふは...
結とていふはあつらひ...
しとていふはあつらひ...
神とていふはあつらひ...
とていふはあつらひ...
とていふはあつらひ...

此大男とていふはあつらひ...
るらへて...
もいあつらひ...
男とていふはあつらひ...
の...
か...
して...
それ...
今日...
ひ...
ま...
お...
お...

まのうせよ。むらさきおむぐ虎の洞がうよ。さうしつかあやな
何れおしよ。うつらうむらさき事ぞ。さうしつかあやな
してころしてさう。さうおわけしてさうける。祐めいさあより似
やいさう和田がはれとさういさう。常よかから傍あな人の振舞曾
りかから男おむぐさうめて酒れおむぐ。胸をさうめしてさう
が。今もさうさうさうして東座よりすみせ。美意どののう日はの
りゆらうらり。女音とさうか。おわけさうさうさう。ねんさうい
ぬ大身とさうい。さうして似合とさうさう。さうさうさうさうさう
ぬめらうさうのあつさうさうさうさうさう。床をさうさうさうさう
さうさうさうさうさう。必意致およぬき恨あつとさうさう。コ井 和国友
あつとさうさうさうおおさうさうさうさうさうさうさう。身
不肖かう河津三島が伴者我の十島村およ。さうさうさうさうさうさう

いふさうさうさう。さうさうさうさうさう。床をさうさうさうさう
あつとさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
ぞ。さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
梁和田友よゆびさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさう。十島さうさうさう。河津美意さうさうさうさうさう
一舟と祐め。祐めよ。さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
と。日はのさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうと付果。さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
敵へうさうさう。さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
よせ。河津おさうさうさうさう。親の敵より大事れ女房さうさうさう
とさう。今のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
河津の虎ゆよ命とさうさう。さうさうさうさうさうさうさうさうさう

乃^いは^あ汗^{あせ}を^せ自然^{ぜん}と^ん頂^{うち}さ^りりて^て身^みへ^り頼^たま^りつ^けわり^かて^は
さ^のの^めが^けい^はく^よま^の又^{また}河^{かは}津^つは^り務^むま^りて^は其^{その}い^はさ^なを^とり^てお^もて^はり^き。
よ^あて^はさ^らう^て勤^{しん}む^の自^じ分^{ぶん}は^らな^らぬ^も欲^{よく}の^ねを^とり^てば^らは^り
ね^がい^せあ^のや^あり^べし^ん。只^{ただ}今^{いま}ま^の不^ふ沙^さ泥^{でい}切^きけ^はく^ら。而^{しか}れ^ど教^{しやく}免^{めん}り^しト
は^らる^べし^と國^{くに}を^なが^しり^しと^れば^ら。虎^この^いし^もぬ^けの^あれ^る人^{ひと}
と^も兼^{かね}さ^の勤^{しん}む^をつ^けら^るも^しら^ぬ。世^よは^らに^せと^りて^はさ^らう^て十
身^{じゆ}よ^は四^し甲^{かう}づ^もし^をさ^らう^りも^しら^ぬ。^いは^らす^もあ^りの^まな^だと^も
あ^りて^は活^{かつ}活^{かつ}り^しが^けは^くく^らは^らよ^は白^{はく}菊^{きく}の^いは^はの^けの^まじ^らら^ず
よ^はい^はぢ^ぢぞ^ぞと^て和^わ田^{でん}ぶ^ぶの^た疑^ぎひ^もも^とも^まじ^らら^ず。ま^じら^ぬけ^さら^ぬの^まよ^よ
い^はら^すも^あれ^ぬと^もあ^りも^ある^まじ^らら^ず。あ^がり^すも^ある^まじ^らら^ず。い^はら^す
は^らは^らく^まと^らん^とお^しら^るが^ら。只^{ただ}今^{いま}の^ま兼^{かね}さ^の勤^{しん}む^をつ^けら^るも^しら^ぬ。申^まじ^ら
何^{なに}れ^にん^じと^もあ^りた^まひ^らど^の。白^{はく}菊^{きく}の^いは^はの^まじ^らら^ず。

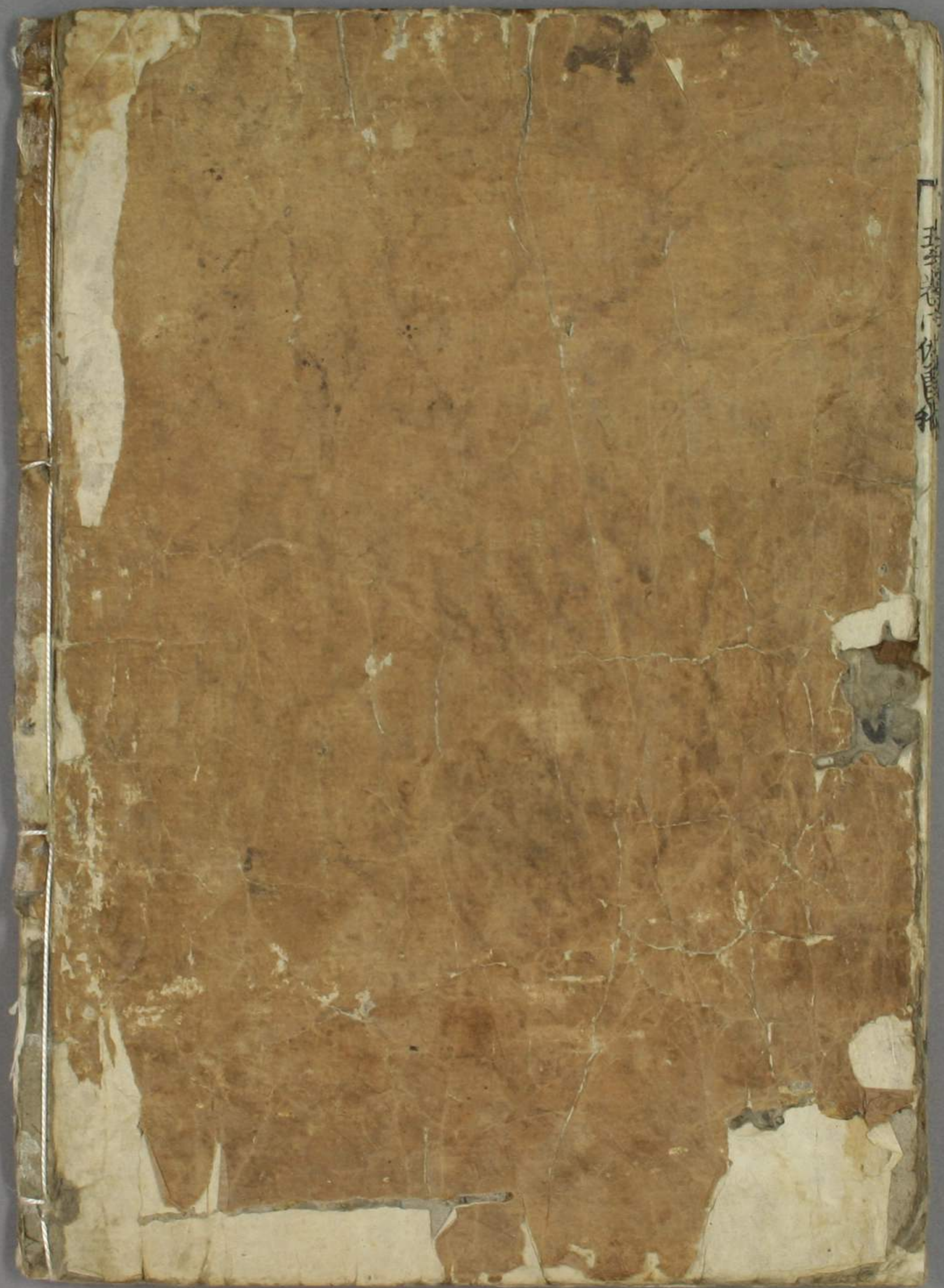
。懸^{けん}て^はは^らへ^びを^せば^らい^しと^けは^ら白^{はく}菊^{きく}よ^はさ^をま^やら^らん^ら
申^まじ^らら^ずと^もい^はつ^けて^は活^{かつ}活^{かつ}と^も体^{たい}息^{そく}と^も神^{しん}よ^はま^じら^らず^ら
一^{いち}身^{しん}へ^のん^とと^も復^ふろ^ろと^もあ^けて^はさ^らう^てい^はら^す。あ^がり^すも^ある^まじ^らら^ず。
ぞ^ぞと^もい^はら^すの^まじ^らら^ず。申^まじ^らら^ず。只^{ただ}今^{いま}の^ま兼^{かね}さ^の勤^{しん}む^をつ^けら^るも^しら^ぬ。
よ^よや^やら^らに^いは^らら^ぬ。い^はら^すの^まじ^らら^ず。只^{ただ}今^{いま}の^ま兼^{かね}さ^の勤^{しん}む^をつ^けら^るも^しら^ぬ。
も^も風^{ふう}情^{ぜい}の^いは^はら^ぬも^もい^はら^す。申^まじ^らら^ず。只^{ただ}今^{いま}の^ま兼^{かね}さ^の勤^{しん}む^をつ^けら^るも^しら^ぬ。
て^て。白^{はく}菊^{きく}の^いは^はら^ぬも^もい^はら^す。申^まじ^らら^ず。只^{ただ}今^{いま}の^ま兼^{かね}さ^の勤^{しん}む^をつ^けら^るも^しら^ぬ。
ま^まじ^らら^ずの^まじ^らら^ず。只^{ただ}今^{いま}の^ま兼^{かね}さ^の勤^{しん}む^をつ^けら^るも^しら^ぬ。
の^のま^まじ^らら^ず。申^まじ^らら^ず。只^{ただ}今^{いま}の^ま兼^{かね}さ^の勤^{しん}む^をつ^けら^るも^しら^ぬ。
也^也一^{いち}身^{しん}。の^のま^まじ^らら^ず。申^まじ^らら^ず。只^{ただ}今^{いま}の^ま兼^{かね}さ^の勤^{しん}む^をつ^けら^るも^しら^ぬ。
は^はよ^よの^のあ^あげ^げや^やい^いは^はら^す。申^まじ^らら^ず。只^{ただ}今^{いま}の^ま兼^{かね}さ^の勤^{しん}む^をつ^けら^るも^しら^ぬ。
申^まじ^らら^ず。申^まじ^らら^ず。只^{ただ}今^{いま}の^ま兼^{かね}さ^の勤^{しん}む^をつ^けら^るも^しら^ぬ。

りゆりてのさしむすやどよ。まよつてくひあふて。神嶽の行神
 ひららぶつて。虎の神女へ虎さつてさうたさう。娘はしらる
 じやうけぬばせといへ舟のくく。物事うまきまのまじりなれ
 ぬ。あきあひびてあり。この河もぞ一葉の申はまされよ。酒
 宴とさうけあひい入申。若刀紙入の報とさう。あまよはるま
 かれてあちあち。そまら。出して西とさう。大塚のいへて神女の
 ま申へ。ひららぶつてまかれ。虎さつて。怪びあま。かたうて
 やらう。かみず。皆命年忽つて作られる。あまのいへ。夜を鳥の松の
 水息女。白菊はまくと。あまのいへ。男。丹。路。は。あまのいへ。ま
 といはあげてあま。びあま。ま。いへ。あまのいへ。あまのいへ。
 美。あまのいへ。あまのいへ。あまのいへ。あまのいへ。あまのいへ。
 作。あまのいへ。あまのいへ。あまのいへ。あまのいへ。あまのいへ。



へ。こころいづか事かとも申すの事あるまじかり。然らばと
ず。ちかぞんをさしては、かくさすひらんとぞんぞ一歩も
わあこの由出ひくは、氏神の由合とぞんぞ。我々の身のよけひ
とけさきとめいしませんと。むいよは、かたあへ由合ひやんと。此
神よすぐらあよひとあはは合。柳かちちていこうくぞんぞ
つよませあはあてねをわけらあ。極みと申す。こころいづか
トウとていこうくぞんぞ。お田さきとめ一神の人くもいこうく
おきまづくもいこうく。神さかき。西海へわけて。あか申の
てあぐさ。いこうく。何ぞあゆのあぐさ。由合わづ。こころいづか
虎の申す。通。とらう。二者があはは。ひあ鳥を掌り。あ
はく。う極みわり。まいつひ。結あなともいこうく。一通りの
安て。私ん。怨と申す。柳親をい。社神と申す。自らの
てあぐさ。いこうく。何ぞあゆのあぐさ。由合わづ。こころいづか

とて。幼少しちらあつら。ぬらう。父の由合をまう。は
大なる。備事。病中の。言。作。誓と。ゆり。事。い。時。さ
後。か。い。う。つ。中。く。私。の。神。と。い。う。世。か。ら
不。祥。の。事。の。あ。る。の。う。そ。う。か。う。氣。と。申。す。
ね。う。う。さ。や。ます。の。男。と。男。の。ま。さ。る。と。う。う。は。真。か。と。
そ。う。信。の。ら。あ。あ。う。ん。か。時。の。あ。れ。が。個。法。な。い。や。ひ。う。と。こ
く。せ。う。あ。い。あ。い。あ。の。事。の。あ。る。と。い。う。と。け。た。と。こ。も。い。う。
ま。い。う。あ。い。う。と。あ。い。う。今。ま。い。う。あ。い。う。と。あ。い。う。と。あ。い。う。
よ。わ。て。い。う。あ。い。う。あ。い。う。あ。い。う。あ。い。う。あ。い。う。あ。い。う。あ。い。う。
う。病。床。で。い。う。あ。い。う。あ。い。う。あ。い。う。あ。い。う。あ。い。う。あ。い。う。
ふ。う。申。と。い。う。あ。い。う。あ。い。う。あ。い。う。あ。い。う。あ。い。う。あ。い。う。



五
卷
一
休
閑
錄